第5回 和光市都市計画マスタープラン検討市民委員会 議事概要

開催日時	令和4年2月18日（金） 15：00～16：30
開催場所	和光市役所 603 会議室
出席者	高木恒一委員長、関口泰典副委員長、田中芳樹委員、峯友彦委員、田中明委員、宮利昌委員、渡部壮大委員（順不同）
欠席者	高橋良多委員、富澤隆司委員、岡崎治委員、川崎真知委員
事務局	和光市 漆原建設部長 都市整備課：小賀坂課長、高橋、松本、神山 玉野総合コンサルタント株式会社：横木、木村
次第	1 開会 2 議事 （1）パブリック・コメントの意見と対応（案）について （2）和光市都市計画マスタープラン（案）について 3 閉会
傍聴者	なし

1 開会

2 議事

事務局

- ・会議は市民参加条例第12条第4項の規定により公開とする。
- ・会議録は同条第6項の規定により公表する。なお、会議録は発言者の名称と、その発言の要点を記載する要点記録の形式とする。

(1) パブリック・コメントの意見と対応（案）について

<資料1に基づき事務局より説明>

高木委員長

- ・41件と多くのコメントをいただいた。レイアウト、紙面の構成、内容にわたるまで、市民の方々はそれぞれのお立場、それぞれのお考えからいただいているため内容は多岐にわたっている。
- ・事務局の対応としては、1つは表記について、よりわかりやすくできるところ、例えば図の解像度を上げたり、河川の記載順等、読みやすさに関する部分については積極的に取り入れていただいている。これらは計画の中身が変わるわけではない。表現の工夫がされたことが大きなポイントだと思う。
- ・もう1つは、市民の方々の生活や日常感覚に近い個別具体的な事柄に関しての意見をいただいた。都市計画マスタープランは個別具体的な政策を示すというより、その基本になる考え方を示すものであり、個別具体的なこととは水準が違う。この点については、ご意見としては受け止めるが、今回の都市計画マスタープランには反映できないところになる。
- ・基本的な方針に関わるご意見が2点あった。1点目がP.5の16番、「地域産業や都市農業の振興を図ります。都市農業は無理なので除く。」というご意見である。都市計画マスタープランの中で都市農業をどのように位置づけるのかということについて議論した上で決定したい。市の考え方の欄に記載されているとおり、都市農業については、都市の構成要素として都市計画に位置づけられるようになったので共存するというのを当委員会として考えてきたという経緯がある。これに対して「農業は無理なので除く」という意見が出されている。これは基本的な方針に関わる点である。この点についてこのご意見をどうするか確認させていただきたい。

- ・私としてはこれまでの議論を踏まえて、特に和光市の特性を考えたときに都市農業は共存すべき重要な産業の要素であるということは確認されたと理解している。事務局の提案のとおり「共存する」という考えで、削除しないということを提案したいが、いかがだろうか。
- ・特にご異議がないため、事務局案のとおり変更しないということで確認させていただく。
- ・2点目は、21番、22番で、自然的土地利用の箇所の、交流の場・憩いの場に「学びの場」という言葉を加えるというご意見である。自然的土地利用の位置づけとして、単に憩いや交流ということだけでなく、午王山遺跡に関しては学びの場という言葉、社会教育というか、そうした要素も位置づけていくということが重要ではないかというご提案である。この点について、事前に事務局とも検討したが、これは機能としてあってよいのではないか、考える方向としてこういう位置づけを持つ方向というのにはあり得るし、このことはこの都市計画マスタープランの中で、ひと言方向性を示しているのではないかという考えに至った。ご意見を採用し、「学びの場」を追加することにしたいが、いかがか。

田中（芳）委員

- ・都市に自然がなくなってきている。子どもたちがより自然にふれあう場所になる。学びというよりも自ら体験するとか、そういったことによく使われる。学びの場でもよいと思うが。

高木委員長

- ・そうすると、さらに一段強く、学びの場、体験の場、これは最終的には事務局に文言をどう収めるか検討いただきたいが、学びという言葉と体験という言葉2つ入れるということではいかがか。よろしいか。
- ・「学び」、「体験」という言葉を追記する形で修正することをこの委員会の案とさせていただく。
- ・そのほかの点でご意見、ご指摘あるか。よろしいか。
- ・委員長からコメントをつけ加えさせていただく。市民の方々のご意見は大変貴重であり、生活に根差したたくさんの方が書かれている。残念ながら都市計画マスタープランという性格上、これに入れ込むことはできないが、このことは私どもとしても今確認したところであるが、市民からの声ということで、こうした声が上がったことについては、きちんと市として受け止めていただき、今後何らかの形で共有、反映させていただきたい。せっかくのパブリック・コメントで、さまざまなご意見を出していただいているわけである。このことはぜひ重要視していただきたい。

(2) 和光市都市計画マスタープラン（案）について

<資料2に基づき事務局より説明>

高木委員長

- ・パブリック・コメントに加え、都市計画審議会、パブリック・コメント説明会での口頭での指摘、デザインの検討を踏まえた冊子の最新版の提案である。最後の最後ということで細かいところもいろいろある。大きな内容の変更はなかった。特に表記の点については、この委員会で1つ1つ踏み込むことはできない。事務局に一任したい。内容についてご意見をいただきたい。
- ・この点について、委員会として承認したことにさせていただきたい。

<当日資料に基づき（1）表紙デザイン等について事務局より説明>

高木委員長

- ・パブリック・コメントでも写真挿入の意見が出ていたように、市民に親しんで見ていただける計画書を作成するというので、ご意見をいただきたい。
- ・年号表記について、個人的には西暦でよいと思っているが、総合振興計画に合わせたほうが市の公的な文書の作りとしては統一感があると思う。総合振興計画の表紙はどうなっているのか。

事務局

- ・総合振興計画の表紙は西暦表記になっている。中身の年号表記は和暦の中に括弧書きで西暦になっている。表紙は西暦で、中身は和暦（西暦）とすると上位計画である総合振興計画と同じしつらえになる。

高木委員長

- ・上位計画と合わせるということで、表紙の年号表記は西暦でいかがか。

委員一同

- ・異議なし。

高木委員長

- ・年号に関して表紙は西暦とする。
- ・表紙のデザインについてはいかがか。ご提案いただいたのは何か理由があるのか。

事務局

- ・事務局としては、将来都市像の「光輝くまち」をデザイン化したものとして案1を提示した。一方、直線的なデザインではなく曲線を取り入れた温かみのある考え方もあるのではないかという意見もあったため、案3を提示している。案2は、現行の都市計画マスタープランが写真を使っていることと、パブリック・コメントで市民から写真挿入のご意見があったことを踏まえて提示している。

高木委員長

- ・案2の写真の中で中心になるのが右下の和光市駅の写真だと思うが、現行の都市計画マスタープランはここまで商業的なものは入っていなかったと思う。「今」を伝えるのには大変よいが、将来的に大丈夫か不安に感じた。ご意見をいただきたい。

峯委員

- ・印刷費は変わらないのか。

事務局

- ・デザインの違いで大きくコストアップするわけではない。今回のデザイン案について委員会できまざまなご意見をいただきたい。

田中（芳）委員

- ・案2は現在を示している。観光案内やマップ案内のイメージになる。未来志向ということであれば、現在をあまり表に出さないほうがよいのではないか。

高木委員長

- ・写真の持っている力と弱さというところもある。案1と案3を比べた場合はいかがか。
- ・計画書の内容に関わるものではないが、表紙はメッセージとして意味を持つと思う。
- ・委員会として確認させていただくが、表紙に関しては案2に関して若干意見が出たということで、決定は事務局に一任でよいか。

事務局

- ・案1、案3の中で進めさせていただく。

<当日資料に基づき（2）国道254バイパス（都市計画道路3・2・13志木和光線）の記載について事務局より説明>

高木委員長

- ・道路名の統一についていかがか。固有名詞であるので、間違いがないように修正いただきたいということを委員会として確認の上、事務局に一任とさせていただきたい。

高木委員長

- ・以上でこの和光市都市計画マスタープラン検討市民委員会は終了になる。全体の大方針から本日の細かいところに至るまでご協力いただき感謝申し上げます。
- ・最後に皆様から一言ずつコメントをいただきたい。
- ・本日急遽ご欠席の富澤委員からメールでご意見をいただいている。事務局から紹介いただきたい。

事務局

- ・富澤委員のご意見を代読させていただく。
- ・第5回和光市都市計画マスタープランの検討市民委員会について、下記のとおり意見を述べる。
- ・P.85、5-4「進行管理と見直し」については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で新しい生活様式に変わり、市の財政も厳しい状況が続く。都市計画マスタープランの策定後、必要であれば10年後の中間見直しを待つことなく、状況の変化に応じた形で計画の改定を検討していただきたい。
- ・その他として、本編の内容ではないが、今後の会議の形式については次のようなことを検討してはどうかという提案をいただいている。
- ・1つ目、緊急事態宣言、まん延防止措置期間中の会議は対面ではなく、書類審査、またはオンライン会議の導入を検討する。モニターやカメラ、マイクを使って自宅、また遠隔地の人とコミュニケーションを取ることかできる会議システムの導入を検討する。2つ目、対面会議においては、各委員に1台タブレットを貸し与え、資料はすべてタブレットに挿入し、画面を閲覧しながら会議を進め、終わったら当日タブレットを返却する。各委員には既に自宅パソコンに資料は電子メールで送信し、事前に検討できるようにする。会議当日は必要な部分だけ自分でコピーして会議に参加する。(ペーパーレス化推進)
- ・本日の資料も事前に冊子として郵送したが、新しい技術を取り入れた形で進めるのはいかがかというご意見をいただいた。

高木委員長

- ・富澤委員には活発にご意見を出していただいた。今日は直接ご意見をいただけず残念である。
- ・計画の柔軟な見直しについては、事務局でもご検討いただきたい。
- ・会議システムに関しては全庁的な問題である。コロナ禍においては、会議への参加が危ぶまれることもあり得るので、ぜひ検討いただきたい。

関口副委員長

- ・和光市は市民参加条例が平成15年にできた。私は平成22年から一般市民として公募し、10年間いろいろさせていただいた。第5次の和光市総合振興計画審議会も副会長、今回も都市計画マスタープラン検討市民委員会の副会長ということで、長くいけば一般市民もこういう場にいることができると思った。これから将来和光がどういうまちになるのか楽しみである。皆様に感謝申し上げます。

田中（芳）委員

- ・埼玉建築設計監理協会から参加させていただいた。参加して和光市はすごく可能性があるまちだということに気がついた。なぜ都市計画マスタープランを作るのかという初心に帰りながら、学ばせていただいた。
- ・先日読んだ本の中で、日本建築学会の仙田満さんが、子どもの環境をデザインすることは未来をデザインすることだと言われていた。大人の便利性だけを追求するのではなく、子ども、将来の環境をいかに作っていくか。そして人間らしく生きられる空間、子どもは子どもらしく遊べる空間、これをしっかり作っていくことが必要だろうということで、読んでなるほどと思った。都市

のハードの空間とか、ブランド力とか、こういったことも魅力ある都市づくりには必要だと思う。根本的には遊び空間が人を和ませて、生活しやすい部分になると感じた。未来がかなりある和光市だということと一緒に考えさせていただいた。

田中（芳）委員

- ・計画期間の2022年から2041年という、生きていられるかわからないが、和光に生まれて70年、私の先祖がこの地に住みだしてから15代目になる。小さいころ遊んだところが今はビルになっている。和光はすごく変貌した。今後どのように変貌し、和光市が本当に住みやすく、注目を浴びるまちになるのか楽しみにしている。和光市の都市計画マスタープランを最後まで見届けたいと思っている。

宮委員

- ・和光消防署から参加させていただいた。各委員、事務局の皆様、お疲れさまでした。和光市の次世代を担う委員会に参加させていただきありがたく思っている。

渡部委員

- ・こういう会議に参加するのは初めてである。経験したことのないものを見られて、いろいろ勉強になった。これからも和光市がいい方向に発展していることを祈っている。微力ながら協力していきたい。

峯委員

- ・和光市社会福祉協議会から来ている。20年という長期にわたる計画づくりに参加させていただき、勉強になった。事務局は大変ご苦労があったと思う。感謝申し上げる。この計画書は見やすくできている。私も今後の計画づくりの参考資料としたい。
- ・計画は作っては終わりではない。今後の進捗や推進が重要である。これ以降もぜひ頑張ってください。

高木委員長

- ・この委員会は2020年12月のスタートであった。長期の20年というスパンの計画を考える一方で、極めて短期的な課題の中に置かれていた。コロナ禍でいまだにマスクをしながらやっている。コロナ禍では何が起きるのかわからない。東京から人口が減り始めている。これがコロナの影響で減っているのか、もっと大きなトレンドなのかわからない。働き方、通勤、集まること、都市というものの当たり前が変化していく中で考えていたところであった。
- ・未来のことを考えるときは、通例では今のあることを前提にこの先の未来を直線的に考えるが、そこが不確かな中で、それでも未来を考える。和光は可能性をたくさん持っている。それはMaaSの問題、新しくできてくる技術の問題、産業振興の問題、もう1つは農業の問題をこのまちはどのようにしていくのか、さまざまなこと、困難はあるにしても、可能性がある。そうしたことを考える基盤を皆様と議論ができたということで大変勉強させていただいたし、刺激もいただいた。私は専門家としてここに呼んでいただいているが、皆さん以上に勉強させていただいたと思っている。皆様に真摯な議論をしていただき、よいものができたと思っている。感謝申し上げます。
- ・今後正式な決定の事務的な手続きに入る。事務局の皆様にご下支えしていただいた。コンサルの方にもご苦労いただいた。これをよい形で使っていただけるように切望したい。どうもありがとうございました。

3 閉会

以上